

学生大使 実施報告書

氏名：地紙橙子

学部・学科(コース)・学年：地域教育文化学部・地域教育文化学科・文化創生コース

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：2025 年 2 月 25 日～2025 年 3 月 11 日

1 日本語教室での活動内容

日本語教室「日向クラブ」は平日 18 時から 1 時間半行われた。今回は教室に来る学習者が少なかったため、毎回担当を変更して 1 対 1 で日本語を教えた。日本語の学習は、学習者が利用している教材を使いながら主に読み書きの練習を行った。特に発音を教える際にはイントネーションに注意し、はっきりゆっくり伝えることを意識した。普段はひらがな、カタカナ、漢字といった文字の学習から単語や文章の理解というように、ステップごとに学習を進めているようだ。担当を持たなかった学生大使は普段からお世話してくれる学生と折り紙や絵しりとりをするなどして交流をした。絵しりとりでは次々と日本語の単語を思い浮かべる学生に、驚きの気持ちでいっぱいだった。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室は平日の夜に行われるため、それ以外の時間には様々な活動を行った。

技能実習生として今後日本で働くために日本語を学ぶ方々との交流では、互いの国の文化について質問しあい、その違いを共有した。特に印象的だったのは「365 日の紙飛行機」をいっしょに歌ったことだ。彼らは慣れない言語に音をつけて歌うことに苦戦していたが、一生懸命に覚えようと練習に励んでいた。

また、大学の英語の授業にも参加した。現地学生 5、6 人のグループに学生大使が 1 人ずつ加わり、10 分間、英語で交流をするというものだった。事前に決めた日本文化に関するテーマに基づいて会話を進めた。積極的に質問をしてくれる学生が多く、日本について関心を持っている様子に嬉しく思った。そこでは代表の学生に対して日本から持ってきた浴衣の着付けも行った。時間が限られていたため簡単な着付けではあったが、喜んでもらえたのではないかなと思う。

滞在中 2 度あった週末にはベトナムの有名な観光地に出かけた。1 週目はホーチミン廟を見たりホアンキエム湖周辺を巡ったりとハノイの市街地を楽しんだ。2 週目にはハロン湾へ行き、船に乗ってその美しい景観を味わった。これらの場所には様々な国から観光客が訪れており、多様な国籍の人々であふれかえる雰囲気にもまた圧倒された。

3 参加目標への達成度と努力した内容

今回の参加目標は海外の文化に直に触れ自分の視野を広げることであった。この 2 週間で日本に暮らしていたら絶対にできないであろう体験をたくさんすることができた。日本との相違点には時に驚くこともあったが、ベトナム独自の文化を知り尊重することを意識した。これまで全く未知であった他国の様子を自分の目で見て身肌で感じ取れたことが、何よりも大きな学びになった。自分にとっての当たり前が覆されたことで間違いなく視野を広げることができたと思う。

そして対面で外国人との言葉を通したコミュニケーションを楽しむことも目標であった。言語への不安や外国人であるという偏見に緊張を感じながらも、同世代のベトナム人と話せたことは思い出に残る時間となった。スムーズな会話にはならなくとも、こちらが伝えようとしていることに彼らが熱心に耳

【学生大使 実施報告書】

を傾けてくれ、聞いたことに対して優しく答えてくれたことはとても嬉しかった。

4 プログラムに参加した感想

今回のプログラムは私にとって初めての海外渡航であった。日本とは全く異なる環境に適応できるのか不安だったが、毎日が新しい経験の連続で充実した日々であった。困ったことがあった際には担当の先生や学生が丁寧に対応してくれたため安心して過ごすことができた。学生寮では不自由な点もややあったが、今回参加した学生大使のメンバーと協力し合って生活をした。食事は米料理、麺料理、パン料理などたくさんの種類があり、日本人の口にも合う味付けとなっているため2週間飽きずに毎回の食事を楽しむことができた。また、市街地から離れた大学付近の町で過ごしたことにより、観光客としてではなく現地の人々に近い状態で生活できたことも特別な経験となった。

プログラムに参加するまではベトナムについて知識はほとんどなかった。しかし今回訪れてみてたくさんさんの魅力を見つけることができた。その上帰国後には、ベトナムについてもっと知りたいという思いが強くなった。このプログラムに勇気をもって挑戦した結果、来て良かったと思える場所にたどり着けたことに喜ばしく思う。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の経験を踏まえて自分自身の知見や学力をより向上させたいという思いが生まれた。日本語を学び上手に発音していたり、日本のことを話していたりする現地学生を見て、刺激とモチベーションをもらった。彼らが一生懸命に勉強している様子を見ると、自分の勉強量はまだまだ不足していると感じる。外国人ともっと関わりを持ちたいという気持ちはあるが、言語の壁にはまだ不安を感じている。この2週間を振り返ると、やはりその不安に負けてしまい、能動的なコミュニケーションを図ることがあまりできなかったと感じる。さらには今回英語が得意な学生と英語で会話をする場面もあったが、話を全て理解することができず悔しい思いをした。より楽しいコミュニケーションにするために今後は自分自身の意識を見直し、特に英語の勉強を強化する必要があると思った。

また、日本語を学んでいるベトナム人の方が日本に関する知識が豊富であると感じた場面もあった。日本人として日本に関する知識が薄いことに恥ずかしさを感じたので、今後より勉強が必要だと感じた。

このような心残りや後悔もあるので、今後の学習を積み重ね、ぜひまた学生大使のプログラムに参加したいと思っている。

6 現地での活動写真



大学構内の様子



大学周辺の通り

【学生大使 実施報告書】



ハロン湾



ベトナム料理